

◎第9回理事会(43.2.23)出席者:富樫会長,酒井,仁杉,松見の各副会長,羽田専務理事,伊藤,飯吉,石橋,市原,岩橋,川崎,神田,米谷,堺,篠原,高橋,福山,横道,吉田,渡辺の各理事,小池監事。議事録署名理事の決定:富樫会長,羽田専務理事,石橋理事。A.報告事項:つぎの各項につき羽田専務理事より報告があり了承された;1)会計報告。刊行物頒布報告。3)各種委員会,その他報告。B.協議事項:1)定例評議員会開催について。2)役員候補者選考委員会について。3)1972年(昭和47年),国際橋梁・構造工学会議(I.A.B.S.E.)の日本開催について。4)その他。5)委員の委嘱について

① 橋梁構造委員会 耐風設計研究小委員会
委員長 平井 敦 東京大学
委員 鷺津久一郎 東京大学
塩谷 正雄 日本大学
小松 定夫 大阪大学
新井 秀雄 国鉄鉄道技術研究所
大久保忠良 建設省土木研究所
岡内 功 中央大学
伊藤 学 東京大学
阿部 英彦 国鉄構造物設計事務所
日野 幹雄 東京工業大学
白石 成人 京都大学
成田 信之 建設省土木研究所
〇榎波 義幸 建設省土木研究所
〇宮田 利雄 東京大学
相馬 清二 気象庁気象研究所
島田 静雄 名古屋大学
池田 哲夫 日本道路公園技術部
〇印は幹事

② 土木用語委員会 土木用語辞典小委員会
委員長〇星釜 和 東京大学
委員 粟津 清蔵 日本大学
井上 広胤 東京都立大学
〇春日屋伸昌 中央大学
佐藤 吉彦 国鉄鉄道技術研究所
斎藤 徹 国鉄山陽新幹線建設部
鈴木 忠義 東京工業大学
千秋 信一 電力中央研究所
内藤 幸穂 中央大学
西脇 威夫 武蔵工業大学
原田 静男 都立無工業高校
樋口 芳朗 国鉄鉄道技術研究所
堀井健一郎 早稲田大学
堀川 清司 東京大学
三木五三郎 東京大学
村上 良丸 建設省土木研究所
村上 博智 早稲田大学
村田 二郎 東京都立大学
森 茂 コンサルタンツ
山本 稔 東京都立大学
八幡 敏雄 東京大学

委員兼幹事
〇井口 昌平 東京大学
〇高橋 裕 東京大学
〇印は土木用語委員と兼任

◎各種委員会

(1) 第17回原子力土木技術委員会(43.1.22)出席者:左合委員長,ほか14名。議事:1)前回議事録の確認。2)動力炉長期構想研究専門委員会について。3)1968年度に希望する学術関係国際会議出席者の推薦について。4)今年の研究課題について。

(2) 岩盤力学委員会主査幹事会(43.1.23)出席者:関係者6名。議事:1)昭和42年度土木学会賞候補推薦について。2)委員会および分科会の今後の運営について。

(3) 岩盤力学委員会第2分科会(第12回)(43.1.23)出席者:高橋主査,ほか5名。議事:1)運営委員会報告。2)第2分科会の今後の運営方針について

(4) 吉田賞選考委員会幹事会(43.1.24)出席者:村田幹事長,ほか2名。議事:1)前回議事録の確認。2)推薦書調整。3)論文審査員選定。4)研究奨励金授与者選考要項について検討。

(5) 海外連絡委員会(43.1.24)出席者:新井委員長,ほか7名。議事:1)学術会議海外渡航者の推薦について。2)在外日本土木技術者の後援について。3)Civil Eng. in Japan, 1968年の編集について。

(6) 水理委員会幹事会(43.1.25)出席者:関係者17名。議事:1)昭和42年度土木学会賞候補推薦について。2)1968年度に希望する学術関係国際会議出席者の推薦について。3)I.A.H.R.について。4)第5回水工学夏期研修会開催について。5)第12回水理講演会について。6)昭和42年度水理学研究の現況について。

(7) 土木図書館運営委員会幹事会(43.1.25)出席者:森委員長,綾幹事長,ほか4名。議事:1)土木図書館運営委員会改組について。2)視聴覚教育委員会(仮称)について。3)次年度予算について。

(8) トンネル工学委員会設計小委員会(43.1.25)出席者:伊吹山委員長,ほか18名。議事:第3章 荷重~第4章 巻厚線,支払線(第26巻巻厚線)までの各条項の審議検討。

(9) 第115回耐震工学委員会(43.1.26)出席者:那須委員長,ほか9名。議事:1)軟弱地盤耐震設計研究委員会について。2)IAEEについて。3)英文耐震規定改訂について。4)地震工学研究発表会開催について。

(10) 土木計画学研究委員会幹事会(第3回)(43.1.29)出席者:関係者9

名。議事:1)第5回土木計画学研究委員会討議課題の決定。2)その他。

(11) 土木計画学研究委員会(第5回)(43.1.29)出席者:米谷副委員長,八十島幹事長,ほか13名。議事:1)第2回幹事勉強会開催の件。2)講習会開催の件。3)政府公募“21世紀の日本”応募の件。4)委員会増員の件。5)その他。

(12) 相模川河口調査委員会(43.1.31)出席者:関係者11名。議事:1)昭和41年度報告書内容の再検討。2)昭和42年度調査経過。3)昭和43年度調査内容。

(13) 会誌編集委員会書評小委員会(43.1.31)出席者:関係者4名。議事:受付図書選定。2)会誌53巻3号書評欄内容決定。3)ブックガイド欄編集計画討議。4)その他。

(14) 異形鉄筋設計例改訂小委員会打合せ(43.2.1)出席者:関係者5名。議事:異形鉄筋設計例集改訂について。

(15) 会誌編集小委員会(43.2.2)出席者:増岡委員長,ほか9名。議事:会誌登稿原稿審査。2)会誌53巻5号編集作業。3)その他。

(16) 表彰委員会主査幹事会(43.2.2)出席者:飯吉主査,ほか3名。議事:1)前回議事録の確認。2)推薦書(功績賞候補,技術賞候補)の調整。3)表彰委員会日程について。

(17) 土木用語委員会(43.2.2)出席者:福田委員長,羽田専務理事,堺出版担当理事,ほか7名。議事:1)経過報告。2)土木用語辞典について。3)土木用語委員会の運営方法について。4)委員の任期について。

(18) 土木用語委員会(43.2.2)出席者:福田委員長,羽田専務理事,堺出版担当理事。議事:1)土木用語委員会経過報告。2)土木学会監修土木用語辞典の監修方法について。3)土木用語委員会の今後の運営方法について。4)委員任期について。5)次回委員会について。

(19) 鋼鉄道橋示方書委員会第3回幹事会(43.2.5)出席者:関係者5名。議事:座屈に関する諸条項の問題についての審議。

(20) トンネル工学委員会土丘小委員会(43.2.6)出席者:高橋副委員長,ほか8名。議事:1)前回議事録の確認。2)小委員会の主旨について。3)第3編設計,第3章荷重より検討。

(21) トンネル工学委員会運営小委員会(43.2.6)出席者:加納委員長,坂本副委員長,ほか8名。議事:1)トンネル工学シンポジウム開催について。2)トンネル視察団賛助金収支中間報告。3)トン

ネル工学委員会予算。4) JREA の委託の件。

(22) 橋梁構造委員会第1回耐風設計研究小委員会 (43.2.7) 出席者: 平井委員長, ほか14名。議事: 1) 委員長挨拶。2) 運営方針について; ①研究項目, ②幹事選出, ③委員の追加。3) イギリス国立物理研究所における耐風研究の現状について(報告)建設省 成田委員。

(23) 空港舗装研究委員会 コンクリート舗装部会 コンクリート材料に関する分科会 (43.2.7) 出席者: 村田主査, ほか9名。議事: 1) 空港舗装用コンクリート材料に関する試験研究成果状況について。2) その他。

(24) 土木年鑑編集委員会 (43.2.7) 出席者: 八十島委員長, 片山副委員長, ほか15名。議事: 1) 土木年鑑1968年版出版経過報告と反省。2) 1969年版編集日程の件。3) 1969年編集方針協議の件。4) その他。

(25) 論文集編集委員会第1部会 (43.2.7) 出席者: 西村委員長, ほか8名。議事: 1) 査読報告。2) 新規受付原稿査読委員の決定。3) その他。

(26) 文献調査委員会 (43.2.8) 出席者: 松本委員長, ほか10名。議事: 1) 会誌53巻4号登載抄録について。2) 解説記事について。3) 文献分類項目について。4) その他。

(27) 論文集編集委員会第2部会 (43.2.8) 出席者: 委員3名。議事: 1) 査読報告。2) 新規受付原稿査読委員の決定。3) その他。

(28) 論文集編集委員会第3部会 (43.2.8) 出席者: 委員3名。議事: 1) 査読報告。2) その他。

(29) 論文集編集委員会第4部会 (43.2.8) 出席者: 神山部会長, ほか6名。議事: 1) 査読報告。2) 新規受付原稿査読委員の決定。3) その他。

(30) 昭和42年度第2回水理委員会 (43.2.9) 出席者: 石原委員長, ほか34名。議事: 1) 第5回水工学夏期研修会開催について。2) IAHR について。3) 水理公式集改訂について。4) 次回講演会開催について。

(31) 空港舗装研究委員会 コンクリート舗装部会設計に関する分科会 (43.2.12) 出席者: 伊東主査, ほか9名。議事: 1) 高上げ舗装設計法について。2) 無筋舗装設計法の修正事項について。3) 各設計方法の比較設計の仕様条件について。4) その他。

(32) 論文賞選考委員会主査幹事会 (43.2.12) 出席者: 岡本委員長, ほか6

名。議事: 1) 経過報告。2) 推薦(応募)候補論文の資格検討。3) 候補論文の専門別仕分け。4) 審査員の決定。5) 審査の方法。6) 次回の主査幹事会および第2回委員会日程。

(33) 原子力土木技術委員会打合せ (43.2.13) 出席者: 左合委員長, ほか4名。議事: 1) 放射性廃液海洋放出に関する研究上の問題点について。2) 放出方法に関する研究方針の検討。3) 放出方法の具体的検討。

(34) 第27回学術講演連絡委員会 (43.2.13) 出席者: 久保委員長, ほか11名。議事: 1) 土木学会昭和43年度全国大会について。2) 土木系学生会について。3) 昭和43年度夏期講習会について。

(35) 出版企画委員会幹事会 (43.2.13) 出席者: 春日屋, 堺正副委員長, 山本幹事長, ほか2名。議事: 1) 土木学会推薦図書制度について。2) 新規出版物の企画と委員会の方針について。3) 昭和43年度出版企画委員会の構成について。

(36) 軟弱地盤耐震設計研究委員会幹事打合せ (43.2.13) 出席者: 関係者4名。議事: 昭和42年度報告書原案についての打合せ。

(37) 海岸工学論文編集小委員会 (43.2.14) 出席者: 委員6名。議事: Coastal Eng. in Japan, Vol. 10の編集作業について。

(38) 空港舗装研究委員 コンクリート舗装部会 (43.2.14) 出席者: 国分部会長, ほか13名。議事: 1) 部会長挨拶。2) 材料分科会報告。3) 設計分科会報告。4) 最終報告書の取りまとめ方針について。5) その他。

(39) 土木用語委員会土木用語辞典小委員会 (43.2.14) 出席者: 星埜委員長, 羽田専務理事, ほか18名。議事: 1) 土木用語辞典小委員会設置までの経過報告。2) 小委員会の事業・運営について。

(40) 大学土木教育委員会第13回幹事会 (43.2.16) 出席者: 高橋幹事長, ほか7名。議事: 1) アンケート集計結果のとりまとめ。2) シンポジウム開催について。

(41) 土木図書館運営委員会幹事会 (43.2.16) 出席者: 森委員長, 綾幹事長, ほか4名。議事: 1) 前回委員会報告。2) 次年度予算案について。3) 図書館運営委員会改組案について。4) 視聴覚教育委員会(仮称)について。

(42) 耐震工学委員打合せ (43.2.16) 出席者: 那須委員長, 岡本副委員長, ほか6名。議事: 英文耐震規定(1964年度)改訂についての打合せ。

◎その他

(1) I.A.H.R. 総会その他報告会 (43.1.25)

場所: 土木図書館講堂

参加者: 約40名

報告者: 7名

(2) 第12回水理講演会 (43.2.9-10)

場所: 発明会館ホール

参加者: 約300名

講演数: 23題

課題: 1) 河口の水理現象

2) 河川形態論

3) その他

(3) 最近の河川災害調査研究に関するシンポジウム (43.2.10)

場所: 発明会館ホール

参加者: 約150名

講演数: 4題

支 部 だ よ り

(1) 第1回映画会 (42.6.21, 日本大学), 映画: 3編, 参加者: 300名。

(2) 第2回映画会 (42.7.6, 土木図書館), 映画: 3編, 参加者: 30名。

(3) 第3回映画会 (42.8.28, 宇都宮市栃木会館), 映画: 3編, 参加者: 150名。

(4) 第4回映画会 (42.9.23, 与野農工高), 映画: 3編, 参加者: 80名。

(5) 第5回映画会 (42.12.9, 早稲田大学), 映画: 4編, 参加者: 130名。

(6) 「構造物の基礎」講習会 (42.12~13, ヤマハホール), 講演: 12題, 参加者: 520名。

(7) 「新しい測定技術」講習会 (42.10.17~18, 日本化学会講堂), 講演: 8題, 参加者: 109名。

(8) 「近代的管理手法」講習会 (42.11, 7~8, 大和証券ホール), 講演: 5題, 参加者: 138名。

(9) 中央高速道路見学会 (42.10.14) 参加者: 96名。

(10) 京浜地区工事見学会 (42.10.24) 参加者: 46名。

(11) 東名高速道路見学会 (42.11.21-22) 参加者: 49名。

(12) 「首都圏の開発」講演会 (42.12.5, 土木図書館), 講演: 4題, 参加者70名。

(13) 幹事交代 (42.12.14)

杉田秀夫→山本 強 鉄道建設公団東京支社環状線第三課長
久保良太→真田 聡 鹿島建設株式会社土木企画部

(14) 刊行物

- A. 「構造物の基礎」
定価 1500 円 42.10.10 発行
- B. 「新しい測定技術」
定価 1000 円 42.10.15 発行
- C. 「近代的管理手法の活用」
定価 1000 円 42.11.5 発行

◎関西支部

(1) シールド工法研究会 (43.2.6, 大阪科学技術センター)

題目と講師:

- 1. 地下鉄シールドの問題点
大阪市交通局高速鉄道建設本部建設部第三建設事務所長 竹山 喬
- 2. 近鉄のシールドの問題点
近畿日本鉄道(株)難波線建設工務局設計課長 齋 哲 司
- 3. 小口径シールドの問題点
大阪市土木局下水道本部管理課長 谷 和 夫
- 4. シールド工事施工上の問題点
前田建設工業(株)大阪支店土木部 中野 衛
司会 大阪大学教授 工博 伊藤 富雄

参加者: 150 名

(2) 臨海地帯水問題研究会 (43.2.16, 大阪科学技術センター)

題目と講師:

- 1. 汚濁河川と湾内の水質
大阪府立公衆衛生研究所主査

- 永井 迪夫
- 2. 湾内の汚濁とその制御
京都大学教授工学部 工博 岩井 重久
- 3. 河川の汚濁と水利用についての将来ビジョン
近畿圏整備本部調査官 藤野 良幸
司会 大阪大学助教授工学部 工博 榎 木 亨
- 4. 海水の淡水化問題
(株)笹倉機械製作所専務取締役 黒坂 隆
- 5. 塩害問題について
京都大学教授防災研究所 理博 奥田 節夫
- 6. 河口湖問題について
大阪大学教授工学部 工博 室田 明
司会 京都大学教授防災研究所 工博 岩垣 雄一

参加者: 89 名

(3) 第 10 回幹事会 (43.2.22, 好文倶楽部) 出席者: 河村支部長, 伊藤幹事長, ほか 12 名。

(4) 40 周年記念行事計画小委員会 (第 5 回) (43.2.2, 好文倶楽部) 出席者: 伊藤幹事長, ほか 6 名。

(5) 第 21 回騒音振動委員会 (43.2.14, 京都大学)

特別講義を聴講した。
題目と講師

- 振動の生理学的影響
札幌医科大学教授 医博 岡田 晃

出席者: 庄司委員長, 畑中 幹事長, ほか 8 名。

(6) 騒音振動委員会幹事会 (第 18 回) (43.2.14, 京都大学) 出席者: 庄司委員長, 畑中幹事長, ほか 5 名。

◎西部支部

(1) 評議員会および幹事会 (43.2.8, 福岡市) 議事: 本年度 総会 提出 議案 審議, 来年度支部長推薦。

(2) 巡回映写会

2月14日 大分市 参加者 302 名
15日 熊本市 豪雪のため中止
16日 鹿児島市 "

(3) 昭和 42 年度総会 (43.2.28, 福岡市)

(1) 本年度事業報告 および来年度事業発表

(2) 支部規定一部改正決定 (副支部長を削り, 幹事長の職責を明文化す) 川崎支部長挨拶 および来年度支部長紹介

43 年度支部長

九大教授 村上 正

43 年度幹事長

第四港建博多港所長 大音宗昭

(4) 研究発表会 (43.2.28, 福岡市)

発表者: 87 名

参加者: 218 名

編集
後記

今月より始まる昭和 43 年度予算は、いわゆる景気抑制型で、きびしい国際経済情勢の中でいかにして国家財政を健全な形で乗り切るか苦心の策と言われている。

しかし、公共事業は伸び率が一けたになったとは言え、相変わらず公共事業費 1 兆 700 億円と財政投融资 2 兆 6990 億円と大規模な事業を遂行するようになっていく。中でも万国博関連事業は 43 年と 44 年とあと 2 ヶ年であって、本年度が工事のピークになると考えられ、建設業界においては本年度中いろいろな問題が生じてくるものと考えられ、その対策に検討を要するものが多い。

高速国道も東名、中央道は一部開通するし、そうすればその他の縦貫道の工事が活発になるはずである。

本年度予算において問題になった財政硬化化ということであるが、一面考え方によると事業が計画的になり、毎年毎年その年の景気でその方針がまちまちなにならないようにすることが近年考えられ、特に国土建設などはある計画性をもたせた事業遂行をしなければならないと言うことが必要であるとされている。そこで道路計画 5 ヶ年計画等が生まれてきたのである。これが今年のように長期計画によって財政支出の義務づけが行なわれると大

変だという思想、これが今年の治水時の計画を難航させた。なかなか素人にわからないことが多い。

さて学会誌も毎回、時宜に合った事項を特集し、いわゆる総合と分化で分化した専門家の掘り下げた領域を全土木技術者に衆知するのに勉めてきたが、今回はそれをお休みにして久し振りに各方面の論文をお送りすることにした。特に巻頭論説は、会計検査院で土木技術者の局長として異彩を放つ増山氏に特異な立場より見ていられる土木事業についての考察をお願いした。われわれに深い指示を与えるものと思われる。その他、港湾計画、ダム設計施工、T V 電信、諸外国の事情紹介や、吉村氏の建設と人間的等会員の注目を集めるものと思っている。さらに「郷土の土木」の第 2 回として関西その①がある。これは 1 月、2 月に西部 (九州) を登載してから、中国・四国を飛んで関西を登載するのであるが、これは大陸の文化が九州より上陸して花開いた畿内における土木事業の歴史遺跡とその苦心の由来をたずねるもので、関西支部のなみなみならぬ熱意が表われるもので、先人の労をしのぶ後輩の美しい姿がうかがえて有難いことである。さらにそれを受けつぐ人々によって未来が開けて行くのを祈るものである。

(本山 蓋・記)